

家族という重し「捨てる」道もある

子どもを支えたり、傷つけたりする「毒親」から、どうやって離れたらいいのか。自身も父親からの虐待やDV(家庭内暴力)に苦しんできた当事者が、「毒親絶縁の手引き」(紅龍堂書店)を出版した。同著が警鐘を鳴らす「社会の危うさ」について、匿名で出版した著者に聞いた。

当事者が「離れ方」の手引きを出版



さらば毒親 下

私自身、7年ほど前からDV等支援措置を利用して父から離れています。父は、子どもたちを自分の所有物だと考えていました。虐待は日常茶飯事。母がいなくなったら後は、家にもほとんど帰らなせんでした。成人後、一人暮らしを始めると、今度は執拗なストーカーが始められました。引越して何度か繰り返しても、家の場所を捜し当てられ、「このクズが」と書かれた真つ赤な手紙が入っていたこともありました。

転居しても つきまとう父

ようやく生活が落ち着いてきたころ、こうした情報をまとめた本がないことに気づきました。さらに決め手となったのが、マイナンバーカードへの疑問でした。たとえば、15歳未満のカード発行の申請は親が行える上に、100人まで代理人が登録できます。親から逃げても、個人情報特定されるおそれがつきまといまいます。自治体によって制度運用にあまりにも差がある実態もわかりました。たとえば、DV等支援措置を受けるには、申し出から1年ごとに更新を行う必要があります。でも更新時期の通知を送るか送らないかの方針



「いまの本を書かない」といふ危機感があった」と著者は話す

「子を管理」する制度や「子は従うべき」に疑問

は、自治体でバラバラです。当事者の立場で「これさえ読んでおけば」というものを作らねば、虐待の被害者や専門家など、50人以上の方からアドバイスを受けた。2000年以上の長さになりました。戸籍簿のマスク申請や、税金、税務における支援措置など、注意しなければならぬことは多岐にわたります。親が子の情報を管理できる戸籍制度があれば、本の分量も3分の1くらいになった気がします。

国民の登録を個人ではなく家族単位で行う戸籍制度は、世界的にも極めてまれです。父親を中心として、家族は親に従うもの、という規範が根強く残っていること、これがではないでしょうか。こうした社会規範は、被害者にとって精神的な重しになります。私の場合も、父からいくらか過酷な仕打ちを受けても「実の父のことを警察に相談するのは」と、深く悩んでいました。たとえ受けている被害が明確に犯罪行為であったとしても、「親だから」という言葉は、脳にバグを起してしまします。

「家族」を否定するつもり意見・感想をdtkh@asahi.comへお寄せください。

トルコ

古代からトルコでは金が大切にされ、文化や生活に深く根づいてきた。結婚式でもお祝いで金貨を贈る。2023年の消費量は世界第4位なんだ。

5133

デ・キリコである。わたしはデ・キリコを知らなかった。むろん画家なのは知っている。他に知っているのは、マネキンみたいな顔のない絵を描いているヒト、である。上野の東京都美術館でデ・キリコ展が開催されているようだ。予備知識なしで見に行くことにした。ところで、デ・キリコはこの国の方なのだろうか。タリッパいのでスペインかも？美術館に入る。すぐに

デ・キリコの知らない顔

答えがあった。ギリシャ生まれのイタリア人のこと。そして、展覧会の一番最初に展示されている絵を見て衝撃を受ける。コテコテの自画像だ。デ・キリコは顔があるもの



ないのも含めてデ・キリコの絵が好きになり、好きな絵が増えるのは幸せなことであると思っただ。日本では10年ぶりの大回顧展で、わたしが生きていくうちにまた回顧展が開催されるとしたら行く楽しみが増える。今回、一番気に入った絵は、1968年に描かれた「オデュッセウスの帰還」。ギリシャ神話に出てくるオデュッセウスが船を漕ぐ絵なのだが、部屋の中真ん中に海がある不思議な絵だ。ダンスがあり、椅子があり、そして海がある。なんでここに海がある？ いや、なんでいいの。ギリシャ神話といえ

料理メモ

ナスとベーコンのトマト煮

1人前約215kcal、塩分1.1g

【主な材料・2人前】 ナス3個(240g)、タマネギ60g、ピーマン1個、トマト1個(140g)、ベーコン30g、オリーブ油大さじ2

【作り方】 ナスはへたを切り、幅2~3cmの輪切りにします。水に5分つけて、水気を拭きます。タマネギはみじん切り、ピーマンは1cm角、トマトは2cm角に切ります。ベーコンは幅2cmに切ります。フライパンにオリーブ油大さじ1を中火で熱し、ナスを炒めます。全体に油がなじむまで炒めて、取り出します。

投票に行きたい

選挙が来るたび、心ならずも棄権する結果となっております。5年ほどになるでしょうか。

わたしたちの投票所は最寄りの小学校なのですが、行き帰りの坂道がとても急なのです。短い距離とはいえ、腰を痛めている私と、ひざを痛めて杖を使っている91歳の夫には、非常に負担です。

区役所に事情を話して相談したところ、都合のよい時に、期日前投票をしたらどうかと言われました。しかし、地区にある支所は自宅からやや遠く、バス停との距離もあって、行きなければタクシーを頼まざるを得ません。

今回の都知事選は、特に関心をもって見ています。ニュースで候補者たちが取り上げられると、夫と互いの意見も言い合うのですが、最後は「でも、行けないね」で終わります。

わたしたちのように、体力的な理由によって、不本意ながら棄権している人は、数多くいるのではないのでしょうか。もっと、簡単に投票ができないものか。日ごろからインターネットは使っていないので、願わくは郵便です。

社会に高齢者は、これからはますます増えていくのです。選挙に行きたい。考えてはいただけませんでしょうか。

東京都港区
鈴木 千鶴子
主婦 86歳

TONJO QUESTION 001

ある企業が人材採用にAIを取り入れたところ、男性が優遇されるということが起こりました。AIは現状の世界にあるデータから学習するもの。つまりそこにあるバイアスまで取り込んでしまう危険があるということです。AIという技術を有用なものにしていくためには、あらゆる分野が協力してAI時代の社会のありかたを構想・実現していく必要がある。だからこそ領域を超えたりバラバラの学びが重要なのです。よりよい答えをめざして問い続け、考え続け、学び続けること。そんな真に自由な知性こそ、これからの世界をつくっていく人たちにとって大きな力になると私たちは信じます。

さまざまな問いについて、一緒に考えてみませんか。
東京女子大オープンキャンパス 7/7(日)・8/3(土)・8/4(日)

正解がない時代に、
問い続ける力を。

東京女子大学

感情がないはずのAIが女性差別をするという。それはなぜか。そしてどう対処すべきか。

現代教養学部